演習問題　構造文章２

「得点できたかどうか」「〇か×か」ではなく、問題文を読んだ時に、「その関連の知識が、頭の中にどう収納されているのか、フォーカスポイントはどこか」を簡単に***余白に描き出して***みてください

ウラ模試 1

[No.11]　鉄筋コンクリート構造の許容応力度計算に関する次の記述のうち，**最も不適当な**ものはどれか.

1. 許容応力度計算において，柱の断面算定では，コンクリートに対する鉄筋のヤング係数比 n は，コンクリートの設計基準強度が高くなるほど大きな値とした.
2. 軽量コンクリート 1 種の許容せん断応力度は，長期・短期ともに，同じ設計基準強度の普通コンクリートの許容せん断応力度の 0.9 倍である.
3. 梁のあばら筋の長期許容応力度は，SD295 から SD345 に変更しても，大きくはならない.
4. 梁の長期許容曲げモーメントを大きくするために，引張鉄筋を D16 の SD295 から同一径の SD345 に変更した.

[No.24]　建築物の耐震設計に関する次の記述のうち，**最も不適当な**ものはどれか.

1. 鉄筋コンクリート造建築物の設計用一次固有周期 T を，略算法でなく固有値解析等の精算によって求める場合には，建築物の振動特性はコンクリートにひび割れのない初期剛性を用い，かつ，基礎や基礎杭の変形はないものと仮定する.
2. 限界耐力計算において，塑性化の程度が大きいほど，一般に，安全限界時の各部材の減衰特性を表す係数を大きくすることができる.
3. 鉄筋コンクリート造の多層多スパンラーメン架構の建築物の 1 スパンに連層耐力壁を設ける場合，連層耐力壁の浮上りに対する抵抗力を高めるためには，最外端部に設けるより，架構内の中央部分に設けるほうが有効である.
4. 鉄筋コンクリート造建築物の床組の振動による使用上の支障がないことを，梁及び床スラブの断面の各部の応力を検討することにより確認した.